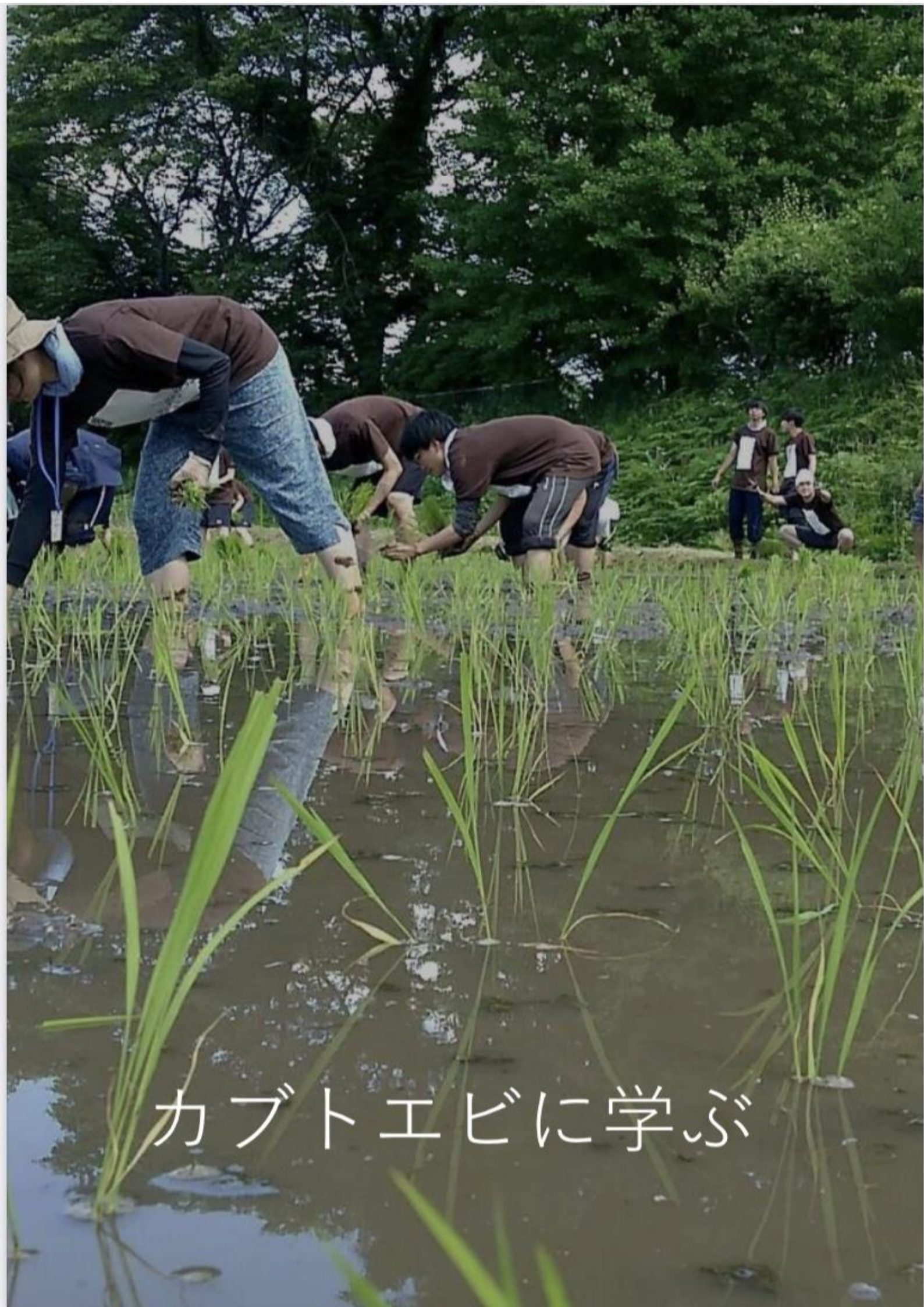




カブトエビに学ぶ

カブトエビの特徴とはたらき

カブトエビ

約2億年前から姿を変えず“生きた化石”と呼ばれる淡水性の甲殻類。ミジンコに近い仲間で、足は40対、体長は大きいもので3cm程になる。カブトエビの寿命は約2ヶ月、一生のうちに産む卵の数はおよそ300～1000個ほど。



①厳しい環境に耐えうる卵をもつ

カブトエビの卵は、**クリプトビオシス※**によって長い間外の環境の変化に耐えることができる。

産み落とされた卵は、田んぼの水抜き後からゆっくり乾燥し、乾いた土壌で約1年過ごしたのち、次の田植えの時期にふ化する。

※：クリプトビオシスは乾燥して長期休眠に入った仮死状態。暑さや寒さに耐えられる。ゆっくりと乾燥することで体内の水がトレハロースという糖に置き換わってガラス化し、体を保護する。

②農薬への耐性がない



農薬によって死んでしまうため、田んぼに「カブトエビが住んでいること」が無農薬の証拠になる。

カブトエビの特徴とはたらき

③雑草防除

雑食でよく食べる▶

雑食のカブトエビは、
稲の生長を妨げる雑草
の新芽を食べる

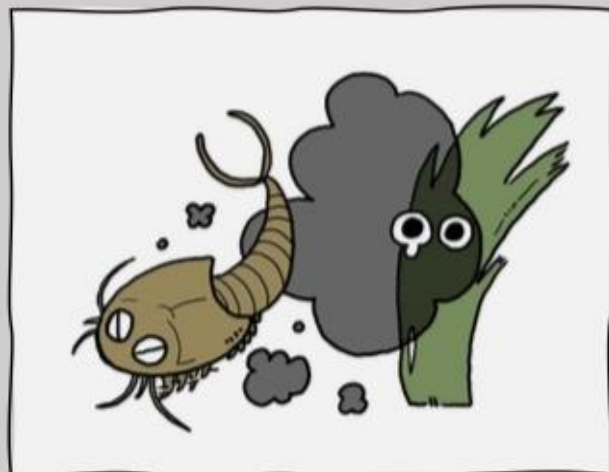


◀根腐れしない

カブトエビが泥を掘り
起こすことによって、
稲の根に酸素を送る

雑草の成長を防ぐ▶

掘り起こした泥で水が
濁ることによって雑草の光合
成を防ぐ



活動のようす：田植え



6月。活動は学生によるカブトエビの授業から始まります。田植えの後はカブトエビの卵を田んぼに放流します。



活動のようす：稲刈り



田植えからおよそ半年後の11月。たわわに実る稲穂を手作業で刈って天日干しします。



この活動がめざすもの

カブトエビ農法
を全国へ

活動への参加から
自分の地域を見直し
新たな価値を見出す

地域活性化

米づくりを介して
子供から大人まで
地域を巻き込んだ

まちづくり



まちづくりとは

観光地としてのまちづくり

国内外から多くの注目を集める観光名所だけでなく、「田植え体験」のような生活文化体験型の活動も“まちづくり”のひとつ。

さまざまな観光資源



<https://www.photock.jp/>

暮らしやすさを求めたまちづくり

目指すべきは、特定の場所に住宅や商業・行政機能などを集約させた**コンパクトシティ※**。

※：生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続的な都市。
都市郊外の大規模な開発や土地の利用を抑制しながら、中心市街の活性化を図る

○ コンパクトシティ実現のための三本柱 ○

公共交通沿線地区への居住促進

中心市街の活性化

公共交通の活性化